

研究を終えるにあたって

(副校長 加藤 芳和)

本校は、平成 16・17 年度と 19・20 年度の研究指定を含め、「学力向上のための授業改善と読書活動」に関する研究実践を過去 8 年間にわたり行ってきました。これまでの実践の中で共通した研究の手だては 2 つあり、第一は、生徒による「授業評価」と「学力調査」の結果分析を行い、授業改善につなげること、第二は、「読書活動」を推進し、読解力を育成することでした。これを受け、平成 22・23 年度には、練馬区教育委員会教育課題研究指定校として「学力向上を目指した学び合いのある授業の工夫 - 読書指導を基盤とした全教科の取組 - 」をテーマとして研究を進めてきました。ここでは、新学習指導要領に示されている『各教科等における言語活動の充実』を授業改善の第三の手だてとして加え、全校体制で取り組んでおります。

この言語活動は、知的活動の基盤であり、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する上で欠かすことはできない活動です。また、言語活動の充実は、今回の学習指導要領改訂において各教科を貫く重要な改善の視点でもあります。しかし、言語活動は、各教科のねらいを実現するための手段であり、その活動自体は目標ではありません。こうしたことを踏まえて、各教科の学習のねらいに即して言語活動を授業のどの場面にどのように組み込んでいくかを検討し、授業実践を進めてきました。

平成 16 年度から一貫したテーマのもとで研究を続けてきましたが、その間に新しく迎えた教員の授業に取り組む姿勢や意気込みも継承されています。これまでの 2 年間の研究を通しての成果や課題を明らかにする作業はまだ途中でありますが、生徒による授業評価からは、生徒の授業に取り組む姿勢が高まってきたことがうかがえました。一方、発言や質問をする生徒の数は増えているものの決して高い値ではありません。研究を通して得られた成果を踏まえて生徒の学力向上に向けた授業改善に今後も継続して全校体制で取り組んでいきたいと考えます。

今回の研究を進めるにあたり、校内研修会では毎回各教科の専門の先生方にご指導をいただきました。ご指導に心より御礼申し上げます。